



# カナリヤ通信

治療と仕事の両立を目指して

病気と就業について、2回にわたりカナリヤ通信で取り上げました。現在、がんについては生涯で2人が罹患する病気となっており、若くても発症している実態が浮き彫りになっています。しかし、医療技術のめざましい進歩によって完治する病気にもなりつつあります。治療しながら働くことが可能となっているいま、「仕事を辞める」という選択肢は最終手段となってきました。今回、はるひ建設の平井悦子さんから編集部に通のメールが届きました。がんと術後の後遺症と闘いながら社長業を務め「病気があっても働ける」という見本にもなっていきたい」と語る平井さんに話をうかがいました。



はるひ建設株式会社  
代表取締役

平井 悦子さん



「住宅の病院」にBIMを導入するため  
検討を重ねている

## ◆起業から3年後、がんの宣告

2011年に公共事業と大手ハウスメーカーの下請けを担う会社を起業しました。軌道に乗って社員も増えている最中の14年、32歳の時にがんを告知されました。

検査の結果は子宮頸がん、ステージは1b2でした。大病院に入院し開腹手術を受け、がんは取りきれましたが合併症により排尿障害や慢性腎炎などの後遺症が残ってしまいました。自力で排尿できないため3時間おきにトイレに行きカテーテルを入れて尿を出さなくてはなりません。就寝時は腎臓への逆流を防ぐため、カテーテルを入れ留置する必要があります。また、月に10日〜15日程度、腎臓の炎症を抑えるため抗菌薬投与の点滴をしなくてはならぬため時間的・肉体的制約が多く不便が多いのが現状です。この春、がん手術から5年が経過し、医師から

「がんは完治した」といわれましたが、術後の後遺症は一生続くといわれています。

## ◆後遺症を抱えながら仕事に復帰

私は退院から3カ月で仕事に復帰しましたが、社長という立場上、実際は休職中もメールなどで仕事をしていた。建設業という仕事柄、どうしても外での仕事が多くなり、会議などもあります。しかし、障害を持っている以上、時間になったらトイレに行かなくてはなりません。女性ですから「恥ずかしい」という感情もありましたが、復帰にあたって元請けや関連の方たちに自分の病気と症状について包み隠さず話をしたところ、積極的な協力と理解ある温かい言葉や思いやりをもらいました。周囲の人たちの支えがとても心強かったですし精神的にも相当楽になり、前向きに仕事を続けることができたのだと思っています。

## ◆娘が1型糖尿病を発症

そのような中、娘が9歳で1型糖尿病(注1)を発症しました。原因はわかりませんが、血糖値を下げるインスリンが出ないため毎日決められた指示どおりに注射しなくてはなりません。血糖値のコントロールがうまくいかなかった合併症を引き起こす可能性があることから、自分自身の病気だけではなく娘の病気とも関わらなくてはならなくなりました。

## ◆病気の経験が仕事に生きる

私と娘の病気が重なり「私の人生は闘いが多い」と感じることもありましたが、病気を経験したからこそ得たことは大きいと感じています。その1つが現在、進めている「住宅の病院」という事業です。自分が病気をしたことで考えたアイデアですが、人材不足の中、清水建設が開発したPanaShotR(注2)やオリンパスの内視鏡カメラを使って効率的に給水管内部や天井など目視が難しい部分を調査・診断する技術です。内部空間が容易に見えることから壊さず安全に検査することができると顧客満足度が向上するほ

# 「仕事に勉強に」人生を楽しむ

か、人手不足の解消と作業の効率化、時間短縮につながり職人の負担軽減にもつながります。さらに「見える化」を深く追求するために某大手建築設計事務所から協力を得てBIMの採用に向け開発を続けています。

## ◆後遺症は個性、仕事も家庭も……私らしく

がんは治る病気になりつつあると聞きます。私自身は手術によって後遺症を抱えることになりましたが、できないと諦めるより、できることを探し仕事に家庭に積極的に頑張っていくことが必要だと思います。

がんが完治したことから、ことし春に大学に入学しました。通信制ですが、仕事でかかわりがありいつも励ましてくれていた某大手建築設計事務所の後押しもあり建築を学んでいます。後遺症はありますが、これは自分の個性と思いつまづきあい「病気があっても働ける」という見本にもなっていきたいと思っています。娘も中学生となり次第に自分の病気の管理もできるようになると思っていますので、私は私らしく生きて、「仕事に勉強に」と人生を楽しんでいきたいと考えています。

(注1) 1型糖尿病：膵臓(すいぞう)で血糖値を下げるインスリンをつくっているβ細胞が破壊されて、インスリンを出す力が弱まったり出なくなったりする病気。体内のインスリンが不足しているため、インスリン注射の治療が必要となる。生活習慣がかわる2型糖尿病とは、原因、治療法が大きく異なる。  
(注2) PanaShotR：天井内部や床下などの隠ぺい空間を360度カメラで撮影するための照明付き架台。4灯先まで明るく照らし1回のシャッター操作で鮮明なパナラマ写真を簡単に撮影することができる。一般的なデジタルカメラでは撮影が困難な場合でも、誰でも簡単に操作できるのが特長。清水建設が開発した。

連絡先はこちら↓

お問い合わせ 株式会社日刊建設通信新聞社  
カナリヤ通信編集部  
TEL 03-3260-8711  
FAX 03-3260-8730  
「意見・感想、プレゼントの応募は  
canaria@kensetsunews.com」にお願いします。

「カナリヤ通信」は、日刊建設通信新聞社の登録商標です。



webで公開中